

第 10 回 火山噴火予知連絡会議事録

日 時：昭和 52 年 5 月 17 日（火） 13 時 30 分－16 時 30 分

場 所：気象庁

出席者：永田、横山、高木、浅田、下鶴、久保寺、加茂、太田（九大）、高尾（国土庁）、飯田（文部省）
佐藤、福島（水路部）、高橋（博）、末広（気象庁）、渡辺、杉浦、諏訪、神沼（幹事）

臨時委員：小坂丈予（東工大）

〔議事に先立ち、永田会長から委員異動について次のとおり紹介があった。国土庁山本重三氏から城野好樹氏、文部省七田基弘氏から植木浩氏、国土地理院瀬戸孝夫氏から佐藤裕氏、海上保安庁水路部杉浦邦朗氏から茂木昭夫氏、気象研究所須田建氏から杉浦次郎氏、気象庁末広重二氏から渡辺偉夫氏。〕

渡辺氏が幹事になるが、末広氏はまだ御役御免とはいきかねるので今後も協力をお願いする(永田会長)。

1. 第 9 回連絡会議事録（案）は異議なく承認された。

2. 最近の火山活動

永田会長から浅間山の登山規制については、同火山の報告のあとで討議したいと提案があった。

2.1 桜 島

気象庁・野島：多少の消長はあるが、依然活動を繰返している。

気象庁地磁気観測による桜島の全磁力変化は、火山の帯磁がさらに強まった場合に予想される変化に一致し、このことは爆発回数等から推測される最近の活動の低下とよく符号する。

加茂委員：ア、文部省自然災害特別研究による「昭和 51 年 6 月豪雨による鹿児島県の土砂および土石流災害に関する調査研究報告」について

イ、4 月 28 日からやや活発となった山頂噴火では、B 型地震があまり増加せず、連続噴煙により降灰が多い。

統一見解については、前回に続き特に発表の必要はないとの結論に達した。

2.2 阿 蘇 山

気象庁・野島：約 1 年の休止後、4 月に入って火山灰や小噴石を上げ、活動がやや高まった。

久保寺委員：本来の活動からみれば、まだレベルは低く、ようやく普通の状態になった。立入規制も実施していない。

2.3 浅 間 山

気象庁・野島：2 月下旬地震群発したが、長続きせず、現在は地震も減少した。

下鶴委員：2 月下旬に群発した地震を解析の結果、噴火前駆地震ではないものと判断される。

前回の連絡会で生田委員代理（国土庁）より照会のあった浅間山登山規制について気象庁と東大震研から提出された見解の主旨は次のとおりである。

「浅間山は48年の噴火後、表面活動に異常はないが、火山性地震回数は増加することが多く、現在もなお活動期にあると考えられる。まだ個々の噴火の日時も適確に予報できる段階ではないし、また異常現象の発生を察知して火山情報を発表しても登山者に周知徹底させる時間的余裕のないことも起こりうる現状では、現在の火口から2 km以内の登山規制を撤廃することは適当な処置とは考えられない」

また本連絡会が登山規制にまで立入ることの是非(下鶴委員)について、永田会長は「本連絡会はどういうやり方がよいのか試行錯誤を繰返し、一つ一つ実例を作り上げていく段階にある。国土庁委員からインホームな形で意見を求められたのであるから、学問的にみた見解を伝えればよく、あとは国土庁に任せればよい」と述べたが、国土庁としては、とりあえずは結論だけを伝えるつもりである(高尾委員代理)。

2.4 南硫黄島周辺海底火山

福島委員代理(水路部): 前回連絡会へ報告以後の福神岡の場、日吉沖の場及び福德岡の場における火山活動の状況報告

小坂臨時委員: 福德岡の場は直径450 mの頂部を有し、最浅部の水深約40 mの海底火山であり付近海水分析によれば、普通海水に比べ変色水の中心部の海水は、Fe、Al、Mn、Si について、5~100倍の増加を示した(西之島新島の活動最盛時には、この比は20~100倍であった)。

久保寺委員: 日吉沖の場、福德岡の場における海底地震計観測

(統一見解) 南硫黄島周辺の海底火山活動について

福神岡の場は昨年12月より何回か航空観測がなされたが、3月初め以後変色水域は認められていない。

日吉沖の場についても同様な観測が行われたが、4月に入ってから変色域は認められなくなった。また福德岡の場では水深40 mが実測され、変色域は目視的にも成分的にも活動が微弱である。

以上からこの海域一帯での海底火山活動は、現在極めて緩慢のようである。

3月末の約1週間、福德岡の場で1点、表面活動休止中の日吉沖の場では3点の計4点で海底地震計による地震観測が行われた。相当数の局地地震が観測された模様であるが、くわしいことは目下解析中である。今後ともこの種の観測及び研究は続行することが望ましい。

2.5 霧 島 山

下鶴委員: 霧島山周辺の地震活動(高千穂峯付近の地震活動は2月をピークに減少過程にある) 気象庁・野島: 52年3月、高千穂河原における臨時地震観測結果報告

2.6 伊豆大島

下鶴委員: 辺長測定と火口温度推移(活動の低下と対応した変化がみられた)

2.7 樽 前 山

横山委員: 樽前山における臨時地震観測結果報告

2.8 吾妻山

気象庁・野島：八幡焼の噴気活動やや活発化した。

3. 噴火規模について

横山委員：観測にたずさわる立場から、微気圧計振幅値のような測定量に基づき、Intensityのよう
うに表現すると住民も理解しやすい。この観点から気象庁震度階のような噴火強度階の作
成が考えられる。噴火強度階の説明事項として爆発地震の振幅、爆発圧力、窓ガラスの破
壊、火山灰の分布、火山弾の分布、溶岩流出量、速度を考えている。

永田会長：活動様式により火山を4つか5つのタイプに分類し、それぞれのタイプごとにマグニチュー
ードをまとめることを考えている。意見が出つくしたところで、ワーキンググループを作り、それをきめてもらう。

次回は加茂委員、次の次の回に末広委員代理にも個人的に宿題をお願いしたい。

4. 連絡会庶務報告

5. 協議事項

5.1 次回連絡会開催期日

日本火山学会秋季大会の開催場所、期日等が正式にきまった時点で10月中開催を前提に期日を
とりきめる。

〔16:45～17:00 記者会見 気象庁記者室〕